令和二年 百周年記念公演

林定期能

第二回

場所 京都観世会館

日時 令和二年 三月二十八日(土)
十一時五十分開場／十二時半始

演目

能 張良 河村 和重

狂言 鴈礫(がんつぶて) 茂山忠三郎

能 井筒 松野 浩行

能 猩々(しょうじょう) 林 彩子

盡きせぬ宿こそめでたけれ

後援 京都市教育委員会　主催 林定期能楽会　http://hayashiteikinoh.com

林定期能とは

「能」は美しい言葉と所作と舞によって進行する「幽玄」の世界。

室町時代、観阿弥・世阿弥らにより大成された能は、現在では五流派が存在しており、林家はそのうちの観世流の家になります。また、江戸時代より京都にて謡や能を伝えてきた「京観世五軒家」と呼ばれる家で唯一現存している家でもあります。

「林定期能」は林家とその同門により大正時代より始まった年間の定期公演で、令和二年、創立百年を迎えます。

幼少より訓練してきた能楽師たちの無駄を削ぎ落とした所作、装束・能面などにみられる芸術的な美、日本で育まれてきた調べ、人間の内面に深く踏み込むストーリー。

この「能」を是非、京都観世会館にて体験してみてください。

※能はユネスコ無形文化遺産に認定されています。

林定期能のご案内
INFORMATION

チケット料金と購入方法 / お問合せ

全館自由席。
[林定期能申込み]氏名・ご連絡先・公演日・チケット券種と枚数をお伝えください。

一般	前売	4,000円
	当日	4,500円
学生(学生証提示)		2,000円
トワイライトチケット(要予約)		2,000円

※チケットは公演当日、受付にて代金と引き換えにてお渡し致します。(現金のみ)
※トワイライトチケットは最終演目のみの観能チケットになっております。詳細はHPにてご確認頂きますようお願い致します。
※未就学児はお一人様まで無料、二人目以降は1,000円のお座席料がかかります。
※当日のチケット予約は、京都観世会館への電話予約のみとなっております。
※場内での録音、撮影および時計、携帯電話等のアラームはご遠慮ください。
※他のお客様の観能に妨げとなると判断した場合は、退席をお願いする場合がございます。

■林定期能楽会 電話 075-751-8158
FAX 075-751-8167

■ホームページ
「林定期能」にて検索→希望の公演を選ぶ→
チケット予約をクリック
http://hayashiteikinoh.com

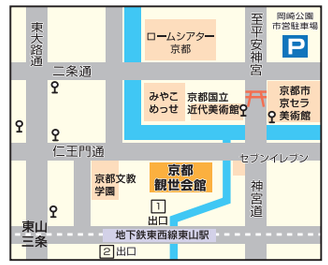
■京都観世会館　電話 075-771-6114

■各出演者へお問合せ

交通アクセス

京都観世会館　京都市左京区岡崎円勝寺町44

【交通アクセス】
●市バス5番、100番「岡崎公園 美術館・平安神宮前」、平安神宮大鳥居より南西に徒歩5分。
市バス31番、46番、201番、203番[東山仁王門]下車、東へ徒歩5分。
●地下鉄東西線「東山駅」下車、北に徒歩5分。
※駐車場あり(有料駐車場20台程度)



表面写真／能《張良》《井筒》金の星写真場　狂言《雁礫》前島写真店　中面写真／Stéphane Barbery　上杉遙

令和二年　百周年記念公演

林定期能

第二回

日　時
令和二年 三月二十八日（土）
十一時五十分開場／十二時半始

（解　説）
本日の演目について　田茂井廣道

12:50

（能）
ツレ（龍神）河村　和貴
シテ（老人 後に 黄石公）河村　和重

張良

ワキ（張良）小林　努
（張良の家来）山口　耕道
間
（後見）河村　和晃　大江　信行

大鼓　河村　大
小鼓　曽和　鼓堂
太鼓　前川　光範
笛　杉　市和

（地謡）河村　紀仁　樹下　千慧　河村浩太郎　大江　泰正　宮本　茂樹　田茂井廣道　河村　晴道　深野　貴彦

14:30

（狂　言）
シテ（大名）茂山忠三郎
アド（道通りの者）山本　善之
アド（仲裁人）岡村　宏懇

鴈礫

（後見）小斉平真路

――――休憩二十分――――

（能）
シテ（里女 後に 井筒の女）松野　浩行
ワキ（旅僧）江崎欽次朗
間
（所の者）網谷　正美

井筒

（後見）片山　伸吾　河村　晴久

大鼓　河村眞之介
小鼓　成田　達志
笛　森田　保美

（地謡）河村　紀仁　佐竹　圓修　樹下　千慧　河村　和晃　宮本　茂樹　河村　晴道　林　宗一郎　田茂井廣道

16:45

（仕　舞）
知章　大江　信行
小塩　片山　伸吾

（能）
シテ（猩々）林　彩子
ワキ（高風）岡　充

猩々

（後見）河村浩太郎　林　宗一郎

大鼓　河村凛太郎
小鼓　曽和　鼓堂
太鼓　前川　光範
笛　左鴻　泰弘

（地謡）樹下　千慧　田茂井廣道　河村　和重　河村　和晃　河村　和貴　松野　浩行　河村　晴久　深野　貴彦　大江　泰正　田茂井廣和　佐竹　圓修　國永　典子

午後五時十五分頃　終了予定

※時間はおよその目安を示しています。
※都合により出演者および演目等の変更の節はご容赦ください。

能

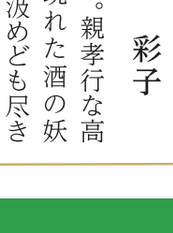
張良（ちょうりょう）　あらすじ

シテ　河村　和重

漢の高祖の臣下張良は、夢に出会った不思議な老人の告に従い、下邳（かひ）という所に足を運び、終に兵法の奥義を授かる。老人の名は黄石公。激流に揉まれる黄石公の沓を命懸けで拾おうとする張良と、試練を与えるため龍蛇となって対決する観音の息詰まる場面。張良役のワキ方の大活躍する曲。

能

井筒（いづつ）　あらすじ



シテ　松野　浩行

『伊勢物語』二十三段の「井筒の女」に、「紀有常の娘」「人待つ女」を重ね、在原業平との恋慕を描く世阿弥の名曲。業平の形見の冠と直衣を身に纏い、女は男とつに溶け合って官能の舞を舞う。恋の永遠性の賛歌。

能

猩々（しょうじょう）　あらすじ

シテ　林　彩子

唐土の物語。親孝行な高風の前に現れた酒の妖精・猩々は、汲めども尽きぬ酒壺を高風に与え、秋の月下に可憐に舞う。若年のシテの持つ花は、世阿弥の唱える「時分の花」。何にも代え難い「時」の美しさを具現する。